

平成 29 年度

事業報告

平成 29 年 4 月 1 日から
平成 30 年 3 月 31 日まで

公益財団法人日本習字教育財団

目 次

(平成29年度事業報告)

一. 書道の通信教育及び実習指導	1
1. 通信教育	1
2. 実習指導	3
3. 書道用具の頒布	3
4. 学習希望者並びに継続学習者の支援	4
5. 表彰	4
二. 書道に関する展覧会の開催	4
1. 書道展の開催	4
2. 席書大会の開催	5
三. 書道に関する機関誌その他の出版物の発行	6
四. 文字資料その他文化資料の調査研究と展示公開	6
1. 書道文化に関する調査研究	6
2. 世界各国の文字資料その他文化資料の収集及びその展示公開	7
3. 教育・文化施設の運営	7
五. 書道に関する教育・研究機関への助成	8
六. その他本法人の目的を達するために必要な事業	9

一. 書道の通信教育及び実習指導

1. 通信教育

(1) 教材

各コースそれぞれ教材及び教師用指導書「教師月報」を配付した。通信教育受講生向け機関紙「日本習字だより」と「たのしい習字」を毎月発行した。

(2) 学習方法

受講申込みの後、教材配本→学習後、課題提出→添削、質問への回答→返送を1か月の学習サイクルとして繰り返した。臨書部の添削については希望者のみ行った。また書写技能基礎講座、書道臨書講座については最終課題提出時に修了試験を行った。

(3) コース

No.	通信教育の名称	期 間
1	書写技能基礎講座 [楷書編] (文部科学省認定)	6 か月
2	書写技能基礎講座 [行書編] (文部科学省認定)	6 か月
3	書道臨書講座【楷書Ⅰ】(文部科学省認定)	5 か月
4	書道臨書講座【楷書Ⅱ】(文部科学省認定)	4～12 か月
5	書道臨書講座【隷書】	3～6 か月
6	日本習字漢字部	12 か月
7	日本習字かな部	12 か月
8	日本習字ペン部	12 か月
9	実用書道くらしの書	12 か月
10	日本習字墨画部	12 か月
11	日本習字臨書部	12 か月
12	日本習字入門講座 [漢字部]	3 か月
13	日本習字幼児部	12 か月
14	日本習字小学1年	12 か月
15	日本習字小学2年	12 か月
16	日本習字小学3年	12 か月
17	日本習字小学4年	12 か月
18	日本習字小学5年	12 か月
19	日本習字小学6年	12 か月
20	日本習字中学1年	12 か月
21	日本習字中学2・3年	12 か月

(4) 日本習字模範揮毫DVDを頒布した。

日本習字臨書部模範揮毫DVD (付録：解説付拡大手本・条幅) を

頒布・進呈した。

「日本習字漢字部 条幅課題拡大手本17」「日本習字漢字部 条幅課題拡大手本18」を頒布した。

(5) 平成30年1月から3月の幼児部、小学部、中学部、漢字部、かな部、ペン部、くらしの書、臨書部の新入会者を対象とした教材「入門編（生徒手本課題集）」「入門編（成人手本課題集）」、学習指導書を発行した。期間を限定して認定添削を行った。

(6) 資格認定

ア. 段級位の認定

(ア) 会員の課題出品に対して各コースそれぞれの基準に従って審査し、段級位を認定した。

(イ) 漢字部昇段試験を実施した。

受験有資格者に対し、昇段試験を7月に実施した。

(ウ) 臨書部昇段試験を実施した。

初段～五段（5月・9月・平成30年1月）

六段位（7月）

七段位（7月）

(エ) 生徒部八段位昇段試験を実施した。

イ. 「くらしの書」実力の認定

「実用書道くらしの書」の前年度受講者で希望者に対し、実力認定試験【初級】・【中級】・【上級】を実施した。（4月）

(7) 認定証の発行

ア. 所定の段級位（墨画部は伝位）合格者に対し、本人の申請により段級位（墨画部は伝位）認定証を発行した。

イ. 「くらしの書」実力認定試験の合格者に対し、本人の申請により認定証を発行した。

(8) 免許状の発行

免許状取得資格者に対し、本人の申請により免許状を発行した。

(9) 合格之証の発行

ア. 漢字部の六段位、七段位、八段位の合格者に対し、本人の申請により合格之証を発行した。

イ. 臨書部の六段位、七段位の合格者に対し、本人の申請により合格之証を発行した。

(10) 雅号之証の発行

本人の申請により、雅号之証を発行した。

2. 実習指導

本法人研修施設及び全国各地域において実習指導を行った。書写と書道の特徴を説明する理論講座「書写学習会」、臨書の学び方を指導する「臨書学習会」を行った。講座名は次の通り。

- (1) 伊都の里研修所 通年コース（専攻科、かな専科、日曜条幅教室）ほか
- (2) 東京研修所 通年コース（漢字部講座A・B・C・D）ほか
- (3) 沖縄研修所 通年コース（漢字部講座A・B・C）、条幅講座、研究講座、かな講座
- (4) 地方講習会 全国各地で実習指導を行った。
- (5) 書写学習会 5会場で行った。
- (6) 臨書学習会 29会場で行った。

3. 書道用具の頒布

会員に対し、書道の技能向上を図る上で最適な書道用具等を選定・推奨し頒布した。書道用具等は「選定品」「推奨品」「頒布会品」に区分しそれぞれ目的に応じて提供した。

(1) 選定品の頒布

書道技能向上を目的とした通信教育各コースの学習において、課題の履修のため欠くことのできない書道用具（筆・紙・墨・硯等）及び硬筆用具（鉛筆・ペン・用紙等）を頒布した。

(2) 推奨品の頒布

選定品以外に学習者からの斡旋要望または書道作品制作及び書道学習の履修に必要となる用具を頒布した。

(3) 頒布会品の頒布

特別頒布会を実施し、文化祭、教室での作品展やイベント向けの書道用具・展示用具などの頒布会品を期間限定で斡旋した。また、新学期準備セールを行い文具、文房具、記念品等の頒布を行った。

ア. 「たなばた特別頒布会」 5月24日～7月21日

イ. 「かきぞめ特別頒布会」 10月18日～12月20日

ウ. 「新学期準備セール」 平成30年2月1日～3月23日

4. 学習希望者並びに継続学習者の支援

学習希望者を対象とした「お習字教室へ行こうキャンペーン」をはじめ、書道学習の機会拡大や継続学習の支援を行う普及企画を実施した。

5. 表彰

通信教育受講者の中から特に優秀な成績の者を表彰した。

文部科学大臣表彰〔文部科学省認定社会通信教育修了者表彰〕

講座名 書写技能基礎講座【楷書編】 表彰者 1人

講座名 書写技能基礎講座【行書編】 表彰者 1人

(主催 文部科学省・一般財団法人社会通信教育協会)

二. 書道に関する展覧会の開催

1. 書道展の開催

(1) 第24回公募日本習字展の開催

書道文化・書道教育の振興を図ることを目的に、広く一般から毛筆・硬筆作品を公募し、地区展覧会等において優秀作品を展示発表、秀作者を表彰した。地区展覧会及び表彰式は、札幌・東京・京都・福岡・沖縄の計5会場で開催した。

ア. 募集方法 本展の開催募集告知を新聞、当財団ホームページで行うとともに、書塾及び書道関係者、書道愛好家に文書にて協力を求めた。

イ. 後援 文化庁 中国大使館 北海道 東京都(東京展) 京都府 福岡県 沖縄県 北海道教育委員会 京都府教育委員会 福岡県教育委員会 沖縄県教育委員会 朝日小学生新聞 朝日中高生新聞 全国都道府県教育長協議会 全国高等学校長協会 全日本中学校長会 全国連合小学校長会 報道機関等

ウ. 公募期間 8月1日～9月20日

エ. 応募総数 96,033点

オ. 審査 日本習字展審査委員会

カ. 審査結果の発表・通知

(ア) 文部科学大臣賞、観峰大賞作品を、機関紙「日本習字だより」「たのし

い習字」、当財団ホームページに掲載発表した。

(イ) 上記2賞を含む特別賞作品100点を掲載した特別賞入賞作品ポスターを応募者、受賞者に送付し、各所での掲示などを依頼。

(ウ) 文部科学大臣賞、観峰大賞作品を地区展覧会開催にあわせて、開催地の主要紙に全面広告として掲載発表し、地区展覧会への動員を図った。

キ. 地区展覧会・表彰式

	開催日 (平成30年)	展名	会場 (開催地)
地区展覧会	2月11日	京都展	京都市勧業館 (京都市)
表彰式	2月25日	福岡展	福岡国際センター (福岡市)
	3月11日	東京展	国際ファッションセンター (墨田区)
	3月18日	札幌展	札幌市民ギャラリー (札幌市)
	3月25日	沖縄展	那覇市ぶんかテンプス館 (那覇市)

ク. 被災地への寄附

震災復興支援の一環として出品料の一部を、「いわての学び希望基金」(岩手県)、「東日本大震災みやぎこども育英基金」(宮城県)、「東日本大震災ふくしまこども寄附金」(福島県)に寄付した。

2. 席書大会の開催

(1) 第18回日本習字全国席書大会の開催

小学生以上の会員を対象に参加者を募集し、全国7会場で実施した。

ア. 募集方法 募集要項を会員に配付し、開催告知を機関紙「日本習字だより」「たのしい習字」教師用指導書「教師月報」に掲載して参加者を募った。

イ. 後援 北海道教育委員会 神奈川県教育委員会 愛知県教育委員会 兵庫県教育委員会 福岡県教育委員会 鹿児島県教育委員会 鹿児島市教育委員会 沖縄県教育委員会 報道機関等

ウ. 開催実績 (いずれも平成30年)

	大会名	会場 (開催地)
1月5日	横浜大会	横浜文化体育館 (横浜市)
1月5日	神戸大会	神戸常盤アリーナ (神戸市)
1月7日	名古屋大会	名古屋国際会議場 (名古屋市)

1月7日	鹿児島大会	鹿児島アリーナ（鹿児島市）
1月8日	札幌大会	札幌市厚別区体育館（札幌市）
1月8日	福岡大会	福岡国際センター（福岡市）
1月8日	沖縄大会	沖縄市体育館（沖縄市）

エ. 審査 日本習字全国席書大会審査委員会

オ. 作品発表

(ア) 機関紙「日本習字だより」「たのしい習字」に席書大賞・席書準大賞・審査委員会奨励賞作品を掲載発表した。

(イ) 一般紙に席書大賞などを全面広告として掲載発表した。

(ウ) 席書大賞、席書準大賞作品を、第24回公募日本習字展地区展会場（札幌、東京、京都、福岡、沖縄）で展示した。

三. 書道に関する機関誌その他の出版物の発行

補助教材として出版物を発行した（別表4）。主な出版物は次の通り。

- (1) 漢字部昇段試験受験用教材として「日本習字漢字部 昇段試験受験ガイド 別冊過去の試験問題付き（平成29年度実施）」を発行した。
- (2) 幼児・児童向け教材として「はじめてのひらがな」、「だいすき！ひらがな」、「ひらがな練習帳1（五十音）」、「ひらがな練習帳2（ことば）」、「カタカナ練習帳」を発行した。
- (3) 漢字学習教材として日本習字漢字学習シリーズ①「1年生の漢字練習」を発行した。（ほか、2年生～6年生まで）

四. 文字資料その他文化資料の調査研究と展示公開

1. 書道文化に関する調査研究

博物館観峰館の収蔵資料の中から中国書画をはじめ、日本の教科書など文化教育に関する資料を分類整理し調査研究を行った。

- (1) 関西中国書画コレクション研究会への参加
近代中国書画に関して他の博物館及び大学等研究機関との連携による共同研究に参加した。加盟館9館：京都国立博物館ほか
- (2) 収蔵資料のデータベース化
収蔵資料の内容・作者・法量・制作年などをデータベース化した。（企画展展示資料の他、中国書法、中国絵画等）

- (3) 収蔵資料の修復を行った。
- (4) 特別企画展「近江商人 野口家十一屋コレクション展」図録を制作し頒布した。

2. 世界各国の文字資料その他文化資料の収集及びその展示公開

(1) 館内常設展示（主な展示資料）

- ア. 近代中国の書画、中国の文字資料、復元石碑
- イ. 「避暑山荘」・「三希堂」の復元資料
- ウ. 原田観峰記念室を常設展示として公開した。

(2) 館内企画展示を下記のとおり実施した。

	会 期	名 称
1	4月15日～6月4日	「館蔵資料による 篆刻家の書画」展
2	6月10日～7月17日	「京都・崇叡堂文庫名品展 日本の宮廷と漢詩文」展
3	9月23日～11月19日	特別企画展「近江商人 野口家十一屋コレクション展」
4	平成30年2月1日～3月21日	「近江仏画めぐり」展
5	平成30年2月1日～3月21日	五個荘地区共催展「商家に伝わるひな人形めぐり 我家の雛飾り」

(3) 館外展示

第24回公募日本習字展地区展会場（京都、福岡、札幌）における「観峰館収蔵作品展」

3. 教育・文化施設の運営

博物館観峰館の施設運営並びに館内で各種体験学習教室、各種イベントを開催した。

(1) 概要

- ア. 開館日 4月15日～12月26日
平成30年1月4日～3月21日
- イ. 休館日 毎週月曜日（祝日の場合は翌日）
展示替え期間（4月1日～14日、9月19日～22日ほか）
年末年始休館（12月27日～平成30年1月3日）

- ウ. 開館日数 270日
- エ. 入館料 一般500円、高校・大学生300円、小・中学生無料
(団体割引、その他各種入館割引を実施)
特別企画展は一般1000円、高校・大学生800円、
小・中学生無料

オ. 入館無料日 5月5日こどもの日ほか、年間計6日

(2) 書道に関する体験学習教室の開催

瓦当拓本教室、石碑採拓教室、篆刻講座、土曜講座

(3) 各種イベントの開催

ア. 企画展に関連して講演会を開催した。

10月6日「野口柿邨とその子孫たち」田中浩氏(蒲生コミュニティーセンター主事)

イ. ギャラリートーク&ミニコンサート 3回

ウ. 体験イベント「夏休み子ども博物館」

エ. 土曜講座 8回

オ. 篆刻講座 1回

カ. 第22回観峰館かきぞめ大会

キ. コンサート等の来館者誘致イベント 6回

(4) 博物館学芸員実習生の受け入れ

博物館学芸員養成の一環として実習希望学生に対して、資料取扱法・作品調査・教育普及などの実習指導を行った。(静岡大学教育学部生4人)

(5) 地域及び教育機関と連携した学習機会の提供

ア. 淡海書道文化専門学校による石碑採拓実習を行った。

イ. 大東文化大学による学外研修を行った。

ウ. 安田女子大学による学外研修・特別閲覧を行った。

エ. 東近江市立五個荘中学校2年生の職場体験を行った。

(6) 展示資料解説

各種団体・学校・グループ来館者に対し館内の案内、資料解説を行った。

五. 書道に関する教育・研究機関への助成

- (1) 「公益財団法人日本習字教育財団 学術研究助成運営委員会」を開催した。
- (2) 公募・助成の学術領域を5項目に定め、審査委員長(古谷稔東京国立博物館名誉館員)及び各領域2人の審査員(外部有識者)を招聘した。

- (3) 第1領域から第5領域までの研究領域について研究を公募した。
- (4) 第4回学術研究助成の成果論文の提出を受け、「査読委員会」による成果論文の査読を行い、その結果を受けて『公益財団法人 日本習字教育財団 学術研究助成成果論文集 vol. 4』を刊行した。
- (5) 第5回学術研究助成事業にあたり、関係機関へのポスター及び募集要項を配布し、書道雑誌への掲載、書道学会での告知、当財団ホームページへの掲載を行った。その結果、第5回学術研究助成者は第2領域1件、第3領域3件、第1領域、第4領域、第5領域は該当者なしであった。

六. その他本法人の目的を達するために必要な事業

- (1) 書道を中心とした国際交流
 - ア. 当財団講師を海外に派遣し、おもに現地会員に対して講習会を開催した。漢字・かな・ペン各手本教材の学習・添削指導、小作品制作を行った（4月8日・ハワイ州ホノルル市）。
 - イ. 公益財団法人京都市国際交流協会とのコラボ事業として、京都市近郊在住の留学生向けに書道体験ワークショップを開催した（11月4日・京都市国際交流会館）。
 - ウ. 中華民国書法教育学会が主催し、台北市政府教育局が後援する台北市国際書法展および新春揮毫会に当財団職員が参加した（2月25日・中華民国台北市「国立国父記念館」）。
 - エ. 外国人に対して、習字に関する基礎知識の説明と簡単な指導ができるような英語版の冊子（電子版）を制作した。これを広く活用いただくため、当財団ホームページ上で平成30年4月に公開する。
- (2) ホームページの制作・更新
 - デザインイメージや各ページの更新を行い、SNSを活用して当財団の活動やイベント等のPR・レポート発信等を行った。また日本習字の周知と当サイトへの誘導のため、インターネットディスプレイ広告を実施した。
- (3) 展覧会の後援及び書道展の支援
 - 福岡矯正管区文芸コンクールをはじめ各種団体等が実施する書道展覧会等に対し、後援・審査等の支援をした。
- (4) 「習字の日」事業
 - 「習字の日」広報活動の一環として次のことを行った。

ア. 既会員向けに、「手紙をかこう」企画を引き続き実施した。また活用事例を機関紙上で広く紹介した。

イ. 当財団ホームページ上に専用ページを設け、PRと周知を図った。

(5) 65周年記念事業

平成30年9月1日に迎える創立65周年に向け、記念事業を企画立案し、ロゴマークの制定、ポスター制作等を行った。